

【凡例】

学習の目標	知	知識や技能に関する目標。
	思	思考力・判断力・表現力に関する
	学	学びに向かう力に関する目標。

観点別評価	知	知識・技能に関する評価規準。
規準	思	思考・判断・表現に関する評価規
	主	主体的に学習に取り組む態度に関する評価規 [態表] 「主体的に学習する態度」の表現に関する評価規準。 [態鑑] 「主体的に学習する態度」の鑑賞に関する評価規準。

学年	題材名	教科書 ページ	学習指導要領との関連		学習の目標	観点別評価規準		十分満足できると考えられる具体的な姿の例	「努力を要する」と考えられる生徒への手立て
			領域分野	各学年の内容					
1	見ることからの発見	1011	表現 (絵・彫刻)	[共通事項] (1) アイ	知 ものの見方やとらえ方を理解し、描き方を工夫して表わそう。	知 知識 描くものの形や色彩、それらを全体のイメージで捉えることを理解している。	多様な視点から描くものの形や色彩で捉え、それらを全体のイメージで深く捉えることを理解している。	■描くものを見るときに形や色に着目するよう参考作品などを使って指導する。	
				A表現 (2) ア(ア)					知 技能 描画材料の特性を生かし、描き方を工夫して表している。
				A表現 (1) ア(ア)	思 身近なものよ 身近なものよさや美しさから描きたいことを考えよう。	思 発想・鑑賞 身近なものの特徴、よさや美しさなどから主題を生み出し、描きたいものを考え工夫して構想をしている。 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図について考え、見方や感じ方を広げている。	身近なものを深く見つめてその特徴、よさや美しさをもとに主題を生み出し、独自の視点から創意工夫して構想をしている。 多様な視点に立って造形的なよさや美しさをより深く感じ取り、作者の心情や意図を深く考えて見方や感じ方を広げている。	■身近なものについて改めて向き合わせ、選択した理由などを考えさせ、改めて主題について考えさせる。 ■生徒自身の主題と表現の意図についてふり返らせ、他者の作品についても主題や意図について作品から捉えさせる。	
				B鑑賞 (1) ア(ア)					学 身近なものに関心を持ち、表現することを楽しもう。
*目標 (3) より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの	主 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、身近なものもつ形や色彩などをもとに見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。	自ら進んで楽しみながら、身近なものもつ形や色彩を感じ取って豊かにイメージを広げようとしたり、新たな視点から作品を捉えようとしたりするなどして、見方や感じ方を積極的に広げようとしている。	■自分の作品の意図と関連させ、他者の作品の特徴やイメージなどについて気づかせるようにする。						
1				心ひかれる風景	1213	表現 (絵・彫刻)	[共通事項] (1) アイ	知 風景のとらえ方を理解し、色彩や構図を工夫して表そう。	知 知識 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、身近な風景がもつよさや美しさを全体のイメージで捉えることを理解している。
	A表現 (2) ア(ア)	知 技能 水彩絵の具の使い方を身につけ、描き方を工夫して表している。	身につけた水彩絵の具の使い方をもとに、新たな表現方法を創意工夫して試しながら表している。				■既習の描画材料について基本的な扱い方の実演を行って説明し、表現方法について整理させる。		
	A表現 (1) ア(ア)							思 身近な風景から感じ取ったよさや美しさをもとに表したいことを考えよう。	思 発想・鑑賞 風景から感じ取った形や色彩のよさや美しさなどから主題を生み出し、全体の構成を考えながら構想を練っている。 風景画がもつ造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図などについて考え、見方や感じ方を広げている。
	B鑑賞 (1) ア(ア)	学 身近な場所を表すことに関心を持ち、表現することを楽しもう。	主 態表 美術の創造活動の喜びを味わい、風景がもつ形や色彩、奥行きや広がりをもとに、主題を生み出し、構想を練るなどして工夫して表す活動に楽しく取り組もうとしている。				自ら進んで表現の活動に楽しく関わり、風景がもつ形や色彩、奥行きや広がりについて興味深く見つめ多様な視点から多くのものを感じ取り構想を練ろうとしたり、表現方法の試行錯誤を重ねたりして表現活動に取り組もうとしている。		
*目標 (3) より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの	主 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、風景がもつ形や色彩、奥行きや広がりなどをもとに、見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。			自ら進んで楽しみながら、身近なものもつ形や色彩を感じながら豊かにイメージを広げようとしたり、新たな視点から作品を捉えようとしたりするなどして見方や感じ方を積極的に広げようとしている。	■自分の作品の意図と関連させ、他者の作品の特徴やイメージなどについて気づかせるようにする。				

1	写し取る形	1 4 ・ 1 5	表現（絵・彫刻）	〔共通事項〕 (1) アイ	知	版表現の方法やその効果を理解し、特徴を生かして表そう。	知	知識	版表現を通して形や色彩などが感情にもたらす効果や造形的な特徴などをもとに、全体のイメージで捉えることを理解している。	版表現を通して多様な視点から形や色彩などが感情にもたらす効果や造形的な特徴などをもとに、独自の見方を働かせて全体のイメージで捉えることを理解している。	■版表現をするとき形や色彩に着目するよう参考作品などを使って指導する。
				A表現(2)ア (7)(4)				技能	版表現の方法を身につけ、意図に応じて工夫し制作の順序を考えながら見直しをもって表している。	版表現の方法を基本から身につけ、基本を守りながら意図に応じて表現方法を工夫し、無理のない制作の順序を考えながら見直しをもって着実に表している。	■版画材料の基本的な扱い方の実演を行って説明し、表現方法について整理させる。
				A表現(1)ア (7)	思	さまざまな材料や版表現の効果から表したいことを考えよう。	思	発想・	版表現を通して形や色彩の美しさや面白さから主題を生み出し、全体と部分との構成を考えながら版表現の構想を練っている。	版表現がもつ特徴を生かして形や色彩の美しさや面白さをもとに独創性をもって主題を生み出し、全体と部分との調和などの構成をより深く考えながら心豊かに版表現の構想を練っている。	■版表現で表したい内容について、選択した理由などを考えさせ、改めて主題について考えさせる。
				B鑑賞(1)ア (7)				鑑賞	版表現のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図などについて考え、見方や感じ方を広げている。	版表現のよさや美しさを深く感じ取り、独自の視点から作者の心情や意図などについて考え、自分としての見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の主題と表現の意図についてふり返らせ、他者の作品についても主題や意図について作品から捉えさせる。
*目標(3)より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの	学	版で表すことに興味をもち、版表現を楽しもう。	主	態表	美術の創造活動の喜びを味わい、版表現を通して形や色彩の美しさや面白さをもとに構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする学習活動に楽しく取り組もうとしている。	自ら進んで版表現の活動に楽しく関わり、版表現がもつ形や色彩の美しさや面白さについて興味深く見詰め、多様な視点から多くのものを感じ取り構想を練ろうとしたり、意図に応じて工夫したりするなどして積極的に学習活動に取り組もうとしている。	■版表現の活動に興味もてるよう、表現したい内容について選択した理由を考えさせたり、主題を再確認させたりして、活動に意欲的に取り組ませる。				
態鑑	美術の創造活動の喜びを味わい、版表現を用いた作品などを見方や感じ方を広げる学習活動に楽しく取り組もうとしている。	自ら進んで楽しみながら、版表現を用いた作品などを独自の視点から深く捉えようとするなどして見方や感じ方を積極的に広げようとしている。	■自分の作品の意図と関連させ、他者の作品の特徴やイメージなどについて気づかせるようにする。								
1	人の姿・動き	1 6 - 1 9	表現（絵・彫刻）	〔共通事項〕 (1) アイ	知	人体のとらえ方を理解し、表し方を工夫しよう。	知	知識	形や色彩などが感情にもたらす効果や、人体がもつ動きや量感など造形的な特徴などをもとに、人体がもつよさや美しさ、生命感を全体のイメージで捉えることを理解している。	形や色彩などが感情にもたらす効果や、人体がもつ動きや量感など造形的な特徴などを十分に把握し、人体がもつよさや美しさや生命感を独自の視点から全体のイメージで捉えることを理解している。	■人体を捉えるときに形や色に着目するよう参考作品などを使って指導する。
				A表現(2)ア (7)(4)				技能	材料や用具の使い方を身につけ、意図に応じて描き方やつくり方を工夫し、制作の順序を考えながら見直しをもって表している。	身につけた材料や用具の使い方をもち、新たな表現方法を創意工夫して無理のない制作の順序を考えながら見直しをもって着実に表している。	■既習している描画材料について基本的な扱い方の実演を行って説明し、表現方法について整理させる。
				A表現(1)ア (7)	思	身近な人の動きやポーズなどから、表したいことを考えよう。	思	発想・	人体から感じ取ったよさや美しさ、生命感から主題を生み出し、全体の構成を考えながら表現する構想を練っている。	人体を深く見詰め、人体がもつ特徴を生かして形や色彩の美しさや面白さをもとに独創性をもって主題を生み出し、全体と部分との調和などの構成をより深く考えながら心豊かに作品の構想を練っている。	■人体の表現について、ポーズを選択した理由などを考えさせ、改めて主題について意識させる。
				B鑑賞(1)ア (7)				鑑賞	人体の作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図などについて考え、見方や感じ方を広げている。	人体を表現した作品のよさや美しさを深く感じ取り、独自の視点から作者の心情や意図などについて考え、自分としての見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の主題と表現の意図についてふり返らせ、他者の作品についても主題や意図について作品から捉えさせる。
*目標(3)より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの	学	身近な人を表現することに関心をもとう。	主	態表	美術の創造活動の喜びを味わい、人体がもつ形や色彩の美しさ、面白さをもとに構想を練ったり、意図に応じて工夫したり表す活動に楽しく取り組もうとしている。	自ら進んで人体を表現する活動に楽しく関わり、人体がもつ形や色彩の美しさや面白さについて興味深く見詰め、多様な視点から多くのものを感じ取り構想を練ろうとしたり、意図に応じて工夫したりして積極的に学習活動に取り組もうとしている。	■人体表現の活動に興味もてるよう、ポーズを選択した理由を考えさせたり、主題を再確認させたりして、活動に意欲的に取り組ませる。				
態鑑	美術の創造活動の喜びを味わい、人体がもつ形や色彩、生命感などをもとに見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。	自ら進んで楽しみながら、人体を表現する作品を独自の視点から深く捉えようとするなどして見方や感じ方を積極的に広げようとしている。	■自分の作品の意図と関連させ、他者の作品の特徴やイメージなどについて気づかせるようにする。								
1	よみがえる材料	2 0 ・ 2 1	表現（絵・彫刻）	〔共通事項〕 (1) アイ	知	材料の特徴を理解し、組み合わせ方を工夫して表そう。	知	知識	形や色彩、材料などの性質、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、それらがもつ美しさや面白さを全体のイメージで捉えることを理解している。	形や色彩、材料などの性質、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを十分に把握し、それらがもつよさや美しさや面白さを独自の視点から全体のイメージで捉えることを理解している。	■立体表現をするとき形や色彩、材料などに着目するよう参考作品などを使って指導する。
				A表現(2)ア (7)(4)				技能	材料や用具の使い方を身につけ、意図に応じて制作の順序を考えながら見直しをもってつくり方を工夫して表している。	身につけた材料や用具の使い方をもち、制作の順序を考え見直しをもち、新たな表現方法を創意工夫して試しながら表している。	■主な材料や用具の基本的な扱い方の実演を行って説明し、表現方法について整理させる。
				A表現(1)ア (7)	思	材料の形や色彩から想像を広げ、表したいものを考えよう。	思	発想・	多様な材料から形や色彩の美しさ、面白さを味わい、楽しく主題を生み出し、組み合わせ方を工夫し構想を練るなどして表す活動に取り組もうとしている。	多様な材料から形や色彩の美しさや面白さをもとに独創性をもって主題を生み出し、全体と部分との調和などの構成をより深く考えながら心豊かに表現の構想を練っている。	■多様な材料で表したい内容について、何を表現したいかその理由などを考えさせ、改めて主題について考えさせる。
				B鑑賞(1)ア (7)				鑑賞	多様な材料を生かした作品から造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図などについて考え、見方や感じ方を広げている。	多様な材料を生かした作品のよさや美しさを深く感じ取り、独自の視点から作者の心情や意図などについて考え、自分としての見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の主題と表現の意図についてふり返らせ、他者の作品についても主題や意図について作品から捉えさせる。
*目標(3)より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの	学	身のまわりの材料の面白さに関心をもとう。	主	態表	美術の創造活動の喜びを味わい、形や色彩の美しさ、多様な材料を生かした面白さをもとに構想を練ったり、意図に応じて工夫したりするなどして表す活動に楽しく取り組もうとしている。	自ら進んで多様な材料による活動に楽しく関わり、形や色彩の美しさや面白さについて興味深く見詰め、多様な視点から多くのものを感じ取り構想を練ろうとしたり、意図に応じて工夫したりするなどして積極的に学習活動に取り組もうとしている。	■多様な材料による立体表現の活動に興味もてるよう、表現したい内容について選択した理由を考えさせたり、主題を再確認させたりして、活動に意欲的に取り組ませる。				
態鑑	美術の創造活動の喜びを味わい、形や色彩の美しさ、多様な材料を生かした面白さなどをもとに見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。	自ら進んで楽しみながら、多様な材料を用いた作品などを独自の視点から深く捉えようとするなどして見方や感じ方を積極的に広げようとしている。	■自分の作品の意図と関連させ、他者の作品の特徴やイメージなどについて気づかせるようにする。								

1	生命力を感じて	2 2 ・ 2 3	表現 (絵・彫刻)	[共通事項] (1) アイ	知	形や色彩などが感情にもたらす効果や、立体感や量感、質感や動きなど造形的な特徴などをとらえ、立体に表そう。	知	形や色彩などが感情にもたらす効果や、立体感や量感、質感や動きなど造形的な特徴などを十分に把握し、よさや美しさ、生命感を全体のイメージで捉えることを理解している。	形や色彩などが感情にもたらす効果や、立体感や量感など造形的な特徴などを十分に把握し、よさや美しさ、生命感を独自の視点から全体のイメージで捉えることを理解している。	■立体表現をするとき形や色彩、材料などに着目するよう参考作品などを使って指導する。
				A表現 (2) ア (ア)(イ)	技能	材料や用具の使い方を身につけ、意図に応じてつくり方を工夫し制作の順序を考えながら見通しをもって表している。	技能	身につけた材料や用具の使い方をもち、制作の順序を考え見通しをもち、新たな表現方法を創意工夫して試しながら表している。	■材料や用具の基本的な扱い方の実演を行って説明し、表現方法について整理させる。	
				A表現 (1) ア (ア)	発想・ 思想	動物や植物から感じ取ったよさや美しさ、生命感から主題を生み出し、全体の構成を考えながら表現する構想を練っている。	発想・ 思想	動物や植物の特徴を生かして形や色彩の美しさ、生命感をもちに独創性をもって主題を生み出し、全体と部分との調和などの構成をより深く考えながら心豊かに表現する構想を練っている。	■材料で表したい内容について、生命感をどのように表現したいかを考えさせ、改めて主題について考えさせる。	
				B鑑賞 (1) ア (ア)	鑑賞	生命力を感じる作品のもつ造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図などについて考え、見方や感じ方を広げている。	鑑賞	生命力を感じる作品のよさや美しさを深く感じ取り、独自の視点から作者の心情や意図などについて考え、自分としての見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の主題と表現の意図についてふり返らせ、他者の作品についても主題や意図について作品から捉えさせる。	
	*目標 (3) より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの	学	生き生きとした姿を表現することに関心をもとう。	主 態 表 態 鑑	美術の創造活動の喜びを味わい、動物や植物がもつ形や色彩の美しさ、生命感などをもちに構想を練ったり、意図に応じて工夫したりして表す活動に楽しく取り組もうとしている。	美術の創造活動の喜びを味わい、動物や植物がもつ形や色彩の美しさ、生命感などをもちに見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。	■材料による立体表現の活動に興味をもてるよう、表現したい内容について選択した理由を考えさせたり、主題を再確認させたりして、活動に意欲的に取り組ませる。 ■自分の作品の意図と関連させ、他者の作品の特徴やイメージなどについて気づかせるようにする。			
1	伊藤若冲の世界	2 4 ・ 2 9	鑑賞 (絵・彫刻)	[共通事項] (1) アイ	知	作品の造形的な特徴を理解し、若冲の作風をとらえよう。	知	形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果をもとに若冲の作品について全体のイメージや作風で捉えることを理解している。	形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを十分に把握し、若冲の作品について独自の視点から全体のイメージや作風で捉えることを理解している。	■形や色彩、が感情にもたらす効果を実感的に理解できるよう、身近な経験と関連づけて考えさせる。
				B鑑賞 (1) ア (ア)(イ)	発想・ 思想	作品のよさや美しさを感じ取り、若冲の意図や表現の工夫について考えよう。	発想・ 思想	作品がもつよさや美しさを深く感じ取り、独自の視点から若冲の意図や表現の工夫や関連する美術文化について深く考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の表現の活動をふり返らせ、若冲の作品の特徴を捉えさせるため自分自身が知っていることと関連づけて考えさせるなどして見方や感じ方を広げさせる。	
				*目標 (3) より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの	学	若冲の作品を楽しく鑑賞しよう。	主 態 表 態 鑑	美術の創造活動の喜びを味わい、若冲の作品や関連する美術文化の鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。	美術の創造活動の喜びを味わい、若冲の作品や関連する美術文化を独自の視点から深く捉えようとするなどして積極的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	■自身の表現活動と関連づけて考えさせたり、当時の文化的背景について説明するなどして興味をもたせ、若冲の作品について考えさせるようにする。
1	私にとってつくること	3 0 ・ 3 1	鑑賞 (絵・彫刻)	[共通事項] (1) アイ	知	作者の言葉を手がかりに、それぞれの作家の作風をとらえよう。	知	形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果、作者の言葉を手がかりにしてそれぞれの作品について全体のイメージや作風で捉えることを理解している。	形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを十分に把握し、作者の言葉を手がかりにしてそれぞれの作品について独自の視点から全体のイメージや作風で捉えることを理解している。	■形や色彩が感情にもたらす効果を実感的に理解できるよう、身近な経験と関連づけて考えさせる。
				B鑑賞 (1) ア (ア)	発想・ 思想	作品のよさや美しさを感じ取り、それぞれの作者の意図や表現の工夫について考えよう。	発想・ 思想	作品がもつよさや美しさを深く感じ取り、作者の言葉を手がかりにして作者の意図や表現の工夫について独自の視点から深く考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の表現の活動をふり返らせ、作家の作品の特徴を捉えさせるため自分自身の経験と関連づけて考えさせるなどして見方や感じ方を広げさせる。	
				*目標 (3) より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの	学	それぞれの作家と作品に関心をもとう。	主 態 表 態 鑑	美術の創造活動の喜びを味わい、作品の鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。	美術の創造活動の喜びを味わい、作者の言葉をもとに作品を独自の視点から深く捉えようとするなどして積極的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。	■自身の表現活動と関連づけて考えさせたり、作家の生涯やエピソードについて説明するなどして興味をもたせ、作家の作品について考えさせるようにする。

1	あったらいいなを形に	3 4 3 5	鑑賞 (デザイン・工芸)	〔共通事項〕 (1) アイ	知	生活や社会を豊かにするデザインの考え方を理解しよう。	知識	形や色彩、材料などの性質をもとに生活や社会を豊かにするデザインの考え方を理解している。	形や色彩、材料などの性質をもとに生活や社会を豊かにするデザインの考え方を多様な視点から捉え、深く理解している。	■形や色彩、材料が感情にもたらす効果を実感的に理解できるよう、身近な経験と関連づけて考えさせる。
				B鑑賞(1) アイ(イ)(ア)	思	デザイナーの言葉をもとに、表現の意図や工夫を考えよう。	発想・鑑賞	目的や機能との調和のとれた美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活を美しく豊かにする美術の働きなどについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	目的や機能との調和のとれた美しさなどを深く感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活を美しく豊かにする美術の働きなどについて多様な視点から深く考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の表現の活動をふり返らせ、作家の作品の特徴を捉えさせるため自分自身の経験と関連づけて考えさせるなどして見方や感じ方を広げさせる。
				*目標(3)より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの	学	身近なものの機能と美しさに関心をもとう。	主 態表	美術の創造活動の喜びを味わい、作者の言葉や考え方をともに楽しく鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。	自ら進んで楽しみながら、作者の言葉や考え方をともに積極的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	■自身の表現活動と関連づけて考えさせたり、デザイナーの言葉について説明するなどして興味をもたせ、デザイナーの作品について考えさせるようにする。
1	形と色彩のメッセージ	3 6 3 7	表現 (デザイン・工芸)	〔共通事項〕 (1) アイ	知	形や色彩の性質を理解し、材料などを工夫して表わそう。	知識	形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果をもとに、全体のイメージで捉えることを理解している。	形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果を多様な視点から考え、全体のイメージで捉えることを深く理解している。	■伝達のデザインをするとき形や色彩、材料などに着目するよう参考作品などを使って指導する。
				A表現(2) アイ(イ)	知		技能	材料や用具の使い方などを身につけ、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考え、見通しをもって表している。	身につけた材料や用具の使い方をもとに、新たな表現方法を創意工夫して試しながら表している。	■材料や用具の基本的な扱い方の実演を行って説明し、表現方法について整理させる。
				A表現(1) アイ(イ)	思	目的や条件などをもとに、伝える相手や内容に合った作品を考えよう。	発想・鑑賞	伝える目的や条件などをもとに、伝える相手や内容などから主題を生み出し、わかりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。	伝える目的や条件などをもとに、伝える相手や内容などから広い視野に立って主題を生み出し、わかりやすさと美しさなどの調和を考え、独自の表現の構想を練っている。	■伝達のデザインをするとき、どうしたら相手に伝わりやすいかを考えさせ、改めて主題について考えさせる。
				B鑑賞(1) アイ(イ)	思		鑑賞	伝える目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	伝える目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを深く感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて深く考えるなどして、多様な視点に立って見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の主題と表現の意図についてふり返らせ、他者の作品についても主題や意図について作品から捉えさせる。
1	模様のデザイン	3 8 3 9	表現 (デザイン・工芸)	〔共通事項〕 (1) アイ	知	身近なものの特徴をとらえ、単純化や繰り返しなどの表し方を工夫しよう。	知識	形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果などをもとに、全体のイメージで捉えることを理解している。	形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果を多様な視点から考え、全体のイメージで捉えることを深く理解している。	■模様のデザインをするとき形や色彩、材料などに着目するよう参考作品などを使って指導する。
				A表現(2) アイ(イ)	知		技能	紙や用具の使い方などを身につけ、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考え、見通しをもって表している。	身につけた紙や用具の使い方をもとに、意図に応じて新たな表現方法を創意工夫し、制作の順序などを考え、見通しをもって試しながら表している。	■材料や用具の基本的な扱い方の実演を行って説明し、表現方法について整理させる。
				A表現(1) アイ(イ)	思	身近なものの形や色彩から発想したデザインを考えよう。	発想・鑑賞	構成や装飾の目的や条件などをもとに、材料の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	構成や装飾の目的や条件などをもとに、材料の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	■模様のデザインをするとき、どうしたら他者が美しく感じられるかを考えさせ、改めて主題について考えさせる。
				B鑑賞(1) アイ(イ)	思		鑑賞	目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを深く感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて深く考えるなどして、多様な視点に立って見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の主題と表現の意図についてふり返らせ、他者の作品についても主題や意図について作品から捉えさせる。

1	ロゴマークで印象づける	4 0 4 1	表現 (デザイン・工芸)	〔共通事項〕 (1) アイ	知  知  思  学	ロゴタイプやシンボルマークの機能や意図について理解しよう。	知識	形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などをとらえ、全体のイメージで捉えることを理解している。	形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果を多様な視点から捉え、全体のイメージで捉えることを深く理解している。	■伝達のデザインをするとき形や色彩、材料などに着目するよう参考作品などを使って指導する。
				A表現 (2) ア (ア)(イ)			技能	材料や用具の使い方などを身につけ、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考え、見通しをもって表している。	身につけた材料や用具の使い方をもとに、新たな表現方法を創意工夫して試しながら表している。	■材料や用具の基本的な扱い方の実演を行って説明し、表現方法について整理させる。
				A表現 (1) イ (イ)			発想・ 構想	伝える目的や条件などをもとに、ロゴマークなどの特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	伝える目的や条件などをもとに、ロゴマークなどの特徴や用いる場面などから広い視野に立って主題を生み出し、わかりやすさと美しさなどの調和を考え、独自の表現の構想を練っている。	■伝達のデザインをするとき、どうしたら相手に伝わりやすいかを考えさせ、改めて主題について考えさせる。
				B鑑賞 (1) ア (イ)			鑑賞	目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	伝える目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを深く感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて深く考えるなどして、多様な視点に立って見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の主題と表現の意図についてふり返らせ、他者の作品についても主題や意図について作品から捉えさせる。
				*目標 (3) より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの			主 態表 態鑑	美術の創造活動の喜びを味わい、ロゴマークなどの伝える目的や機能などを考えた表現の学習活動に楽しく取り組もうとしている。	自ら進んで、ロゴマークなどの伝達のデザインの活動に楽しく関わり、伝える目的や機能などを多様な視点から考え、意図に応じて積極的に表現の学習活動に取り組もうとしている。	■伝達のデザインの活動に興味をもてるよう、表現したい内容について選択した理由を考えさせたり、主題を再確認させたりして、活動に意欲的に取り組ませる。 ■自分の作品の意図と関連させ、他者の作品の特徴やイメージなどについて気づかせるようにする。
1	機能と美しさの調和	4 2 4 3	鑑賞 (デザイン・工芸)	〔共通事項〕 (1) ア	知  思  学	同じ種類の用具でも目的や機能によって、さまざまな形や色彩があることを理解しよう。	知識	形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果などをとらえ、デザインの考え方を理解している。	形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果を多様な視点から捉え、デザインの考え方を深く理解している。	■形や色彩、材料が感情にもたらす効果を実感的に理解できるよう、身近な経験と関連づけて考えさせる。
				B鑑賞 (1) ア (イ)(ア)			発想・ 構想 鑑賞	身近な用具のよさや美しさを感じ取り、機能と美しさの関係について考えよう。	用具がもつ目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活を美しく豊かにする美術の働きなどについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の表現の活動をふり返らせ、身近な用具の特徴を捉えさせるため自分自身の経験と関連づけて考えさせるなどして見方や感じ方を広げさせる。
				*目標 (3) より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの			主 態表 態鑑	身近な用具の機能と美しさの調和に関心をもとう。	美術の創造活動の喜びを味わい、目的や機能をもった用具の鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。	■自身の表現活動と関連づけて考えさせたり、用具の特徴について説明するなどして興味をもたせ、身近な用具について考えさせるようにする。
1	紙でつくる	4 4 4 5	表現 (デザイン・工芸)	〔共通事項〕 (1) アイ	知  知  思  学	紙の特徴を理解し、つくりたいものに合った制作方法を工夫しよう。	知識	形や色彩、紙の性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。	形や色彩、紙の性質や、それらが感情にもたらす効果などを多様な視点から捉え、全体のイメージで捉えることを理解している。	■紙による装飾のデザインをするとき形や色、材料などに着目するよう参考作品などを使って指導する。
				A表現 (2) ア (ア)(イ)			技能	紙や用具の使い方などを身につけ、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考え、見通しをもって表している。	身につけた紙や用具の使い方をもとに、意図に応じて新たな表現方法を創意工夫し、制作の順序などを考え、見通しをもって試しながら表している。	■材料や用具の基本的な扱い方の実演を行って説明し、表現方法について整理させる。
				A表現 (1) イ (ア)			発想・ 構想	構成や装飾の目的や条件などをもとに、紙の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	構成や装飾の目的や条件などをもとに、紙の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	■紙による装飾のデザインをするとき、どうしたら他者が美しく感じられるか考えさせ、改めて主題について考えさせる。
				B鑑賞 (1) ア (イ)(ア)			鑑賞	紙を用いた作品がもつ目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活を美しく豊かにする美術の働きなどについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	紙を用いた作品がもつ目的や機能との調和のとれた美しさなどを深く感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活を美しく豊かにする美術の働きなどについて深く考えるなどして、多様な視点に立って見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の主題と表現の意図についてふり返らせ、他者の作品についても主題や意図について作品から捉えさせる。
				*目標 (3) より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの			主 態表 態鑑	生活で使う紙の作品に関心をもち、楽しく表現しよう。	美術の創造活動の喜びを味わい、構成や装飾の目的や機能などを考えた紙を材料にした表現の学習活動に楽しく取り組もうとしている。	■紙による装飾のデザインの活動に興味をもてるよう、表現したい内容について選択した理由を考えさせたり、主題を再確認させたりして、活動に意欲的に取り組ませる。 ■自分の作品の意図と関連させ、他者の作品の特徴やイメージなどについて気づかせるようにする。

1	焼き物をつくる	4 6 4 7	表現 (デザイン・工芸)	〔共通事項〕 (1) アイ	知	焼き物の特徴を理解し、つくりたいものに合った制作方法を工夫しよう。	知	知識 形や色彩、粘土の性質や、それらが感情にもたらす効果などをもとに作品全体のイメージで捉えることを理解している。	形や色彩、粘土の性質や、それらが感情にもたらす効果などを多様な視点から考え、全体のイメージで捉えることを理解している。	■生活で使用するもののデザインをするとき形や色彩、材料などに着目するよう参考作品などを使って指導する。
				A表現 (2) ア (ア)(イ)	知		技能	粘土や用具の生かし方などを身につけ、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考え、見通しをもって表している。	身につけた粘土や用具の生かし方をもとに、意図に応じて新たな表現方法を創意工夫し、制作の順序などを考え、見通しをもって試しながら表している。	■材料や用具の基本的な扱い方の実演を行って説明し、表現方法について整理させる。
				A表現 (1) イ (イ)	思	土の特徴から発想し、生活を楽しくする作品を考えよう。	発想・ 鑑賞	使う目的や条件などをもとに、使用する者の気持ちや粘土から主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。	使う目的や条件などをもとに、粘土の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	■生活で使用するもののデザインをするとき、どうしたら他者が美しく感じられるか考えさせ、改めて主題について考えさせる。
				B鑑賞 (1) ア (イ)(ア)	思		鑑賞	目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、焼き物の作者の心情や表現の意図と工夫、生活を美しく豊かにする美術の働きなどについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、焼き物の作者の心情や表現の意図と工夫、生活を美しく豊かにする美術の働きなどについて深く考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の主題と表現の意図についてふり返らせ、他者の作品についても主題や意図について作品から捉えさせる。
				*目標 (3) より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの	学	生活で使う焼き物に関心を持ち、楽しく表現しよう。	主 態表 態鑑	美術の創造活動の喜びを味わい、生活で使う目的や機能などを考えた表現の学習活動に楽しく取り組もうとしている。 美術の創造活動の喜びを味わい、生活で使う目的や機能をもった焼き物の作品の鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。	自ら進んで、粘土による創造活動の喜びを味わい楽しく構成や装飾の目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。 自ら進んで楽しみながら生活で使う目的や機能をもった焼き物の作品を多様な視点から考え深く捉えようとするなどして、見方や感じ方を積極的に広げようとしている。	■生活で使用するもののデザインの活動に興味もてるよう、表現したい内容について選択した理由を考えさせたり、主題を再確認させたりして、活動に意欲的に取り組ませる。 ■自分の作品の意図と関連させ、他者の作品の特徴やイメージなどについて気づかせるようにする。
1	木を暮らしに生かす	4 8 4 9	表現 (デザイン・工芸)	〔共通事項〕 (1) アイ	知	木の特徴を理解し、つくりたいものに合った制作方法を工夫しよう。	知	知識 形や色彩、木の性質や、それらが感情にもたらす効果などをもとに作品全体のイメージで捉えることを理解している。	形や色彩、木の性質や、それらが感情にもたらす効果などを多様な視点から考え、全体のイメージで捉えることを理解している。	■生活で使用するもののデザインをするとき形や色彩、材料などに着目するよう参考作品などを使って指導する。
				A表現 (2) ア (ア)(イ)	知		技能	木や用具の使い方などを身につけ、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考え、見通しをもって表している。	身につけた木や用具の使い方をもとに、意図に応じて新たな表現方法を創意工夫し、制作の順序などを考え、見通しをもって試しながら表している。	■材料や用具の基本的な扱い方の実演を行って説明し、表現方法について整理させる。
				A表現 (1) イ (イ)	思	木の特徴から発想し、生活を楽しくする作品を考えよう。	発想・ 鑑賞	使う目的や条件などをもとに、使用する者の気持ち、木から主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。	使う目的や条件などをもとに、木の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	■生活で使用するもののデザインをするとき、どうしたら他者が美しく感じられるか考えさせ、改めて主題について考えさせる。
				B鑑賞 (1) ア (イ)(ア)	思		鑑賞	目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、木工作品の作者の心情や表現の意図と工夫、生活を美しく豊かにする美術の働きなどについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、木工作品の作者の心情や表現の意図と工夫、生活を美しく豊かにする美術の働きなどについて深く考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の主題と表現の意図についてふり返らせ、他者の作品についても主題や意図について作品から捉えさせる。
				*目標 (3) より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの	学	生活で使う木の作品に関心を持ち、楽しく表現しよう。	主 態表 態鑑	美術の創造活動の喜びを味わい、生活で使う目的や機能などを考えた表現の学習活動に楽しく取り組もうとしている。 美術の創造活動の喜びを味わい生活で使う目的や機能をもった木工作品の鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。	自ら進んで、木工作品の創造活動の喜びを味わい楽しく構成や装飾の目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。 自ら進んで楽しみながら生活で使う目的や機能をもった木工作品を多様な視点から考え深く捉えようとするなどして、見方や感じ方を積極的に広げようとしている。	■生活で使用するもののデザインの活動に興味もてるよう、表現したい内容について選択した理由を考えさせたり、主題を再確認させたりして、活動に意欲的に取り組ませる。 ■自分の作品の意図と関連させ、他者の作品の特徴やイメージなどについて気づかせるようにする。
1	祭りの造形	5 0 5 1	鑑賞 (デザイン・工芸)	〔共通事項〕 (1) アイ	知	伝統行事に生きる造形とそれを支える技術について理解しよう。	知	知識 形や色彩、材料や光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などをもとに、伝統行事に生きる地域の文化遺産などについて全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	形や色彩、材料や光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを多様な視点で捉え、伝統行事に生きる地域の文化遺産などについて文化的背景を考えながら全体のイメージや作風などで捉えることを深く理解している。	■形や色彩が感情にもたらす効果を実感的に理解できるよう、身近な経験と関連づけて考えさせる。
				B鑑賞 (1) イ (ア)(イ)	思	伝統行事の造形的なよさや美しさを感じ取り、美術文化の見方や感じ方を広げよう。	発想・ 鑑賞	伝統文化に生きる地域の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	伝統文化に生きる地域の文化遺産などのよさや美しさなどを深く感じ取り感じ取り、美術文化について深く考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	■生徒自身の日常での経験をふり返らせ、祭りの造形について自分自身が知っていることと関連づけて考えさせるなどして見方や感じ方を広げさせる。
				*目標 (3) より。評価基準はこのうち観点別評価になじむもの	学	風土や伝統に根差した造形に関心をもとう。	主 態表 態鑑	美術の創造活動の喜びを味わい楽しく伝統文化に生きる地域の文化遺産などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	自ら進んで楽しみながら、伝統文化に生きる地域の文化遺産などを独自の視点から深く捉えようとするなどして積極的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	■自身の表現活動と関連づけて考えさせたり、自身の体験について話し合わせるなどして興味をもたせ、祭りの造形について考えさせるようにする。